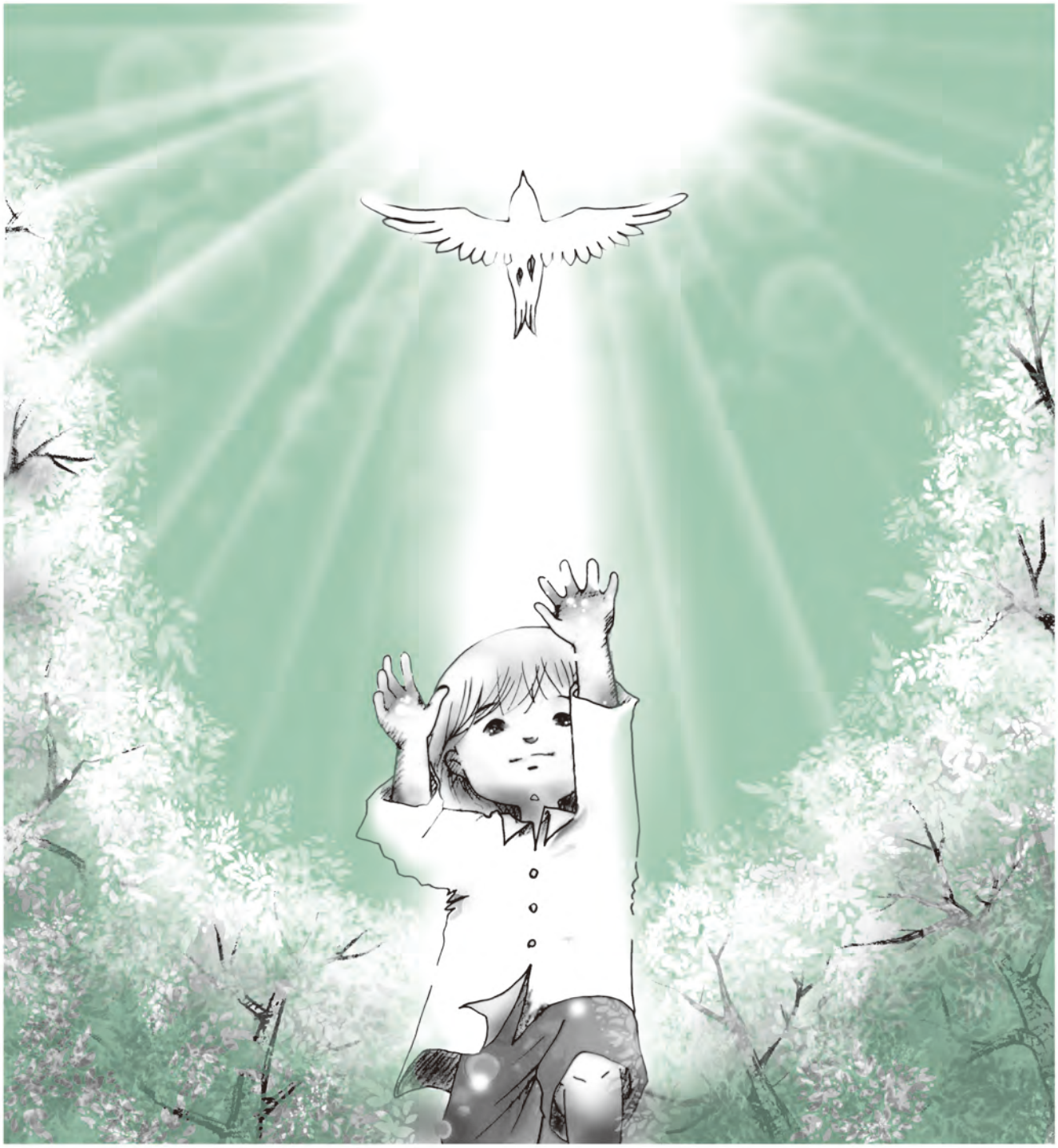
和歌山県

男女共同参画センター

りぃぶる

No.71
2018.3



表紙デザイン作者：尾崎共（とも）さん（イラストレーター、和歌山県紀の川市在住）

今号の注目記事

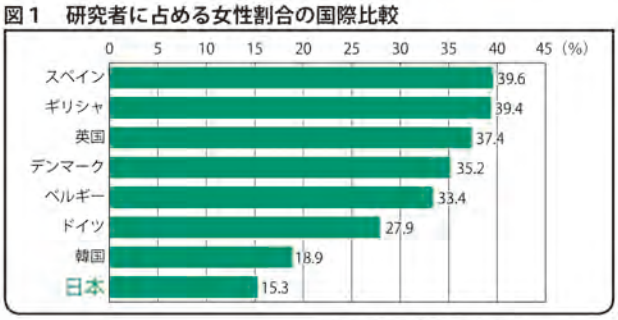
りぃぶる★アイ　特集　和歌山で活躍する理工系女子
「女性活躍企業同盟」を発足しました！
魅力ある女性リーダー養成講座

特集　和歌山で活躍する理工系女子

数年前から、理工系の女性を指す「リケジョ」という言葉が使われ始めましたが、その数はまだまだ少ないのが現状です。我が国における女性研究者の割合は15.3%と諸外国に比べて低い水準に留まっています。（図1）

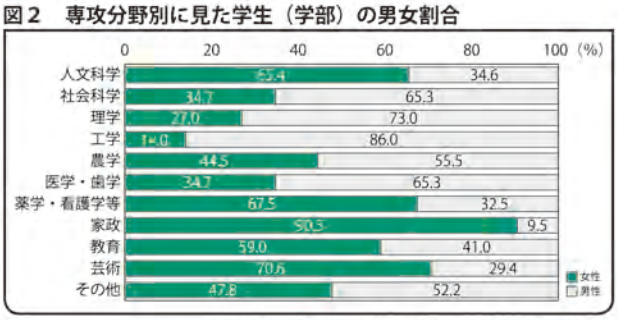
また、専攻分野別にみた女子学生（大学生）の割合について、理学・工学についてはそれぞれ27%、14%と分野によって男女の偏りがみられ（図2）、理工系においては女子学生がそもそも少ないため、企業としても積極的な採用が困難な状況にあります。

図1　研究者に占める女性割合の国際比較



平成29年版内閣府パンフレットより。

図2　専攻分野別に見た学生（学部）の男女割合



文部科学省「学校基本調査」（平成28年度）より作成。

女性が様々な分野にチャレンジしていくことにより、多様な視点や発想が加わり、生き生きとした社会の実現が期待されています。

しかし、理工系分野に興味がある人たちのなかには、「女性が少ないけど、やっていけるかな」「結婚や育児で仕事が続けられるか不安」と思っている人もいるかもしれません。

そこで今回は、和歌山県内の「リケジョ」お二人に理工系の面白さや働き方、将来の夢などについてお話をお伺いしました。和歌山県内の大学でも女子学生が少ない(※)のですが、県内の「リケジョ」はどのように考えているのでしょうか。

※和歌山大学システム工学部約19%、近畿大学生物理工学部約30%（平成29年度）

★インタビュー★

山田淳子さん（入社16年目）
株式会社島精機製作所
グラフィックシステム開発部勤務
和歌山大学大学院システム工学研究科修了

古賀涼花さん（大学2年生）
和歌山大学システム工学部
システム工学科環境デザインメジャー(専攻)
建築、環境、都市計画、まちづくりについて勉強中。

Q：理工系の学部に進もうと思った時期と理由についてお聞かせください。

山田：中学生の頃です。白衣を着てさっそうと歩く研究職に憧れていました。理科と英語が得意だったのですが、英語を使って働くイメージが思い浮かばず、数学はそんなに得意でなかったので、高校に入ってから理工系に行くためにすごく勉強しましたね。

古賀：私は小学3年生のときに建築家になろうと思いました。当時テレビで、依頼人の家を大改造するという人気番組をいつも見ていました。中学生になって理科や数学が好きだったというのもありますね。

Q：現在の会社に就職された理由、仕事の魅力について教えてください。

山田：県内出身で県内に就職したいという希望があったのと、世界的なシェアをもつ会社と知って興味を持ったこと、自分が大学で学んだことを活かせる会社ということで、ここを選びました。仕事は型紙を作るソフトウェアの開発なのですが、このソフトを使ってモノづくりをしている人たちを支えているんだ！という部分がこの仕事のやりがいです。

ニット機械製造・販売メーカーである、島精機製作所が開発したコンピュータ横編機の組立ライン

Q：専攻分野の魅力について教えてください。

古賀：建築家を目指しているのですが、自分が考えて建てた家に長年住んで喜んでもらいたいのです。そのために勉強しているんだと思うと楽しいです。

Q：理工系に進んで良かったな、逆に大変だなと思うことはどんなことですか？

山田：自分の性格として、ソフトを黙々と作ることができるのは向いていたなと思います。作成過程で自分の意思が反映されるのが嬉しいです。大変なのは常に新しいことを勉強していかないといけないということ。どんどん新しい技術が出てくるので、自発的に努力していかないと。現状に落ち着いてしまったら駄目だと思っています。

古賀：それは私も思います。ずっと勉強し続けないといけないなって。私は大学院への進学を考えているのですが、女子の先輩が少ないので情報を得るのが難しくて、具体的にどう勉強して、どう就職したらいいのかが分からないのが不安です。

山田：分かります。それ。私、システム工学部の1期生だったんですが、将来のことを聞ける人はほんといなくて、不安でした。

進学、就職、結婚について

Q:進路について、女子学生同士で話題にされますか？

古賀：卒業後の話はよくします。大学院に進学したい人はその目的がはっきりしていますし、進学せずに就職する人もどういうところに就職したい、どういう仕事がしたい、ということが明確な人が私の周りには多いです。専攻分野が環境系ということもあり、公務員志望が多いですね。将来結婚して家庭を持つことを考えると、大学院へ進む女性は少ないんです。

山田：（うなずきながら）大学院の２年は大きいと思います。卒業したら24歳、それだったら先に働いて早く結婚した方がいいと思う人は多いですね。私自身が一人目を産んだのが33歳、二人目は35歳を過ぎてからでした。できないわけではないけど、体力的にもっと早く産んでいたら楽だったのかな、と時々考えます。

Q：仕事とプライベートの両立についてはどうですか？

山田：実はそれを聞かれるのが一番難しくて…。私、時短勤務からフルタイムに戻って６カ月目なんです。もう今が一番しんどくて毎日が必死です。今の会社では産休・育休を取っても、またフルタイムで働いている女性が最近は多いんです。昨年の４月に社内に保育園ができ、普段は地元の保育所に預けているのですが、土曜日は社内の保育園で預かってもらえるので、土曜出勤もできて、ありがたいです。以前は出産や育児を理由に退職してしまう女性も多かったようですから。

古賀：わぁ、それはすごくいいですね！　友人とも結婚してもずっと働きたいという話はよくします。でもできるのかどうか不安です。建築関係の仕事は出張や転勤が多いんです。家庭を持つとなると、それは負担になるなぁって考えてしまいます。

今後の目標について

Q：古賀さんから先輩の山田さんに聞いてみたいことはないですか？

古賀：はい。あの、理工系の職業を選んでしまって、嫌だったな、やめておいたら良かったなということはないですか？

山田：うーん、それはないですね。

古賀：今自分が目指していることを、将来本当に職業としてやっていけるのかが不安なんです。

山田：それは今でもありますよ。私はソフト開発という仕事の中で、自分の得意分野を伸ばして自信にしていこうと思ってます。きっと建築のなかでも自分が得意な分野ってあると思うんですよ。それを見つけて、伸ばしていったら自信につながる気がします。

古賀：今の私の周りの学生はみんな目的をもって励んでる子が多くて、時々焦ることもあります。

山田：焦らなくても大丈夫だと思いますよ。学生のときにしか学べないこともありますよね。大学にいるときは、どんどん新しい情報が入ってくるので、なんでも勉強できます。でも就職してから実際に経験して得るものも大きいです。学生のうちは幅広く勉強しておくと、社会に出てから意外なところで役立つ知識がいっぱいあるなぁと思います。専門性だけが勉強ではないですよ。

古賀：そうなんですね。確かに建築とは一見関係ないような授業もあって、それはそれでまた面白いので、将来役立つのかもしれないですね。

Q：山田さんの目標や将来像はどうですか？

山田：私はもう少し余裕を持って仕事と家庭を両立できるようになりたいですね。今は勉強する時間もないので、落ち着いたら新しい技術を身につけて部内でも頼られる存在になりたいです。

Q：最後に理工系を目指す後輩たちに応援のメッセージを！

山田：やりたいことを頑張ってやってほしいです。勉強はもちろんですが、遊ぶことも。旅行するのもいいですよ。社会人になると時間がないですから。そういう経験が社会に出てから役に立つことがあります。（古賀さんに）海外の建築物とか見に行っておくといいかもしれませんよ！

古賀：自分のやりたいこと、好きなことを仕事にできる可能性が理工系にはあります。女性が少ないからって不安になることもあると思いますが、「やってみたい！」という気持ちを大切にして理工系に進んでほしいです。

子どものころから理工系の職業に就くことに憧れ、その目標に向かって進んできた二人の女性。進路や就職のことを気軽に相談できる先輩たちが少なく不安に感じた時期もあったようですが、山田さんは結婚・出産を経てキャリアを積むことを目指されています。

皆様も理工系分野で活躍されている先輩たちのあとに続き、未来の夢に向かってチャレンジしてみてください。

『女性活躍企業同盟』を発足しました！

和歌山県では、女性が継続して働き活躍できる職場環境の整備を進め、女性が企業でその能力を十分に発揮できる和歌山をつくるため、企業・団体による「女性活躍企業同盟」（以下「同盟」）を発足しました。

●同盟の主な参加資格
・「働く女性の活躍を応援する企業」と宣言すること。
・女性の能力が十分に発揮できる取組を行っていること。
・女性が継続して働きやすい職場環境を整備し、全従業員に周知していること。

●同盟としての取組
・管理職向けの意識改革セミナー等を実施
・女性従業員に向けたキャリアアップセミナー等を実施
・参加企業等間の情報交換会を実施
●詳細な参加資格や同盟に参加している企業・団体の一覧は県のホームページで確認できます。
県 HP　http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031400/danjo/doumei

同盟発足式と記念講演が 10 月 24 日ホテルアバローム紀の国にて行われました。133 の企業・団体が参加され、参加証明書の交付と同盟による宣言が行われました。

また記念講演として、前消費者庁長官の板東久美子さんより**「働く女性の活躍　待ったなし～活躍推進で変わる企業・社会」**と題して、お話しいただきました。

第1部・女性活躍企業同盟発足式

はじめに、仁坂知事が「女性が家庭でも職場でも活躍できるように、社会の仕組みを変えていくことが必要。そのために、みんなで力を合わせて同盟を結ぶことで、良い環境が作れる。」と話しました。

つぎに、参加企業・団体を代表して、同盟に一番に申し込んだ相互タクシー株式会社の代表取締役の田畑孝芳さんに参加証明書が交付されました。

また、参加企業・団体を代表して、株式会社岩本食品の岩本恵子さんが「私たちは、男女ともに公正な採用・登用・育成に取り組み、特に女性が活き活きと活躍できるよう、働きやすい職場環境の整備、風土づくりに取り組んでいくことを誓います！」と宣言されました。

今後の和歌山が女性にとって働きやすい環境になることを期待しましょう。

第2部・記念講演

前消費者庁長官
板東久美子さん

今、日本は少子化と高齢化が同時に進んでおり、企業として生産性や競争力を向上していくためには女性の活躍が必要である。しかしながら、女性の活躍を理解し、経営戦略の柱として取り組む企業は多くはなく、女性の活躍を重要な第一歩として多様性を生かす企業を目指すことの重要性を強調されました。

また、子育てや介護支援だけでなく、長時間労働の是正など社会全体での意識改革も重要であり、今回の和歌山県の企業同盟は様々な対策に総合的に取り組んでいこうとしていることが素晴らしく、継続していくことが大切であるとも述べられました。

最後に、講師自身の経験から、家庭も職場もチーム力が重要で一人で抱えこまないこと、仕事と家庭の両立でマネジメント力が鍛えられること、仕事と生活の充実が相乗効果を生むことなど、数々のアドバイスをいただきました。

魅力ある女性リーダー養成講座

“りぃぶる”ではリーダーを目指す働く女性を対象に、平成29年10月18日（水）・11月17日（金）に「魅力ある『女性リーダー』養成講座」を開催しました。

Part Ⅰ　スキルアップ講座　～アサーティブコミュニケーションを学ぼう！～

講師：谷水美香さん（特定非営利活動法人アサーティブジャパン認定講師）

まず、受講者が「自分の感情を適切に表現できるか」など16項目の自己評価を行い、自身のコミュニケーションパターンのタイプを把握しました。そのうえで「自分も相手も尊重して自分の意見や要求を伝える手法」であるアサーティブについて、心構えとして大切な「４つの柱」※を学びました。そして、受講者の職場でのコミュニケーションの悩みを事例として取り上げ、各自ロールプレイングを行い、①伝える内容（事実、感情、要求）の整理、②伝えるときの流れなどのスキルについて、理解を深めました。

講師は、働き方が多様化している現在、アサーティブを身につけ、部下が仕事へのモチベーションを維持できるようなコミュニケーションを実践してほしいと結ばれました。

※アサーティブな関係のための「４つの柱」

誠実：自分にも相手にも誠実に

率直：“伝わるように話す”努力を（自分を主語に、簡潔に具体的に）

対等：上から目線でも卑屈でもなく

自己責任：誰かのせいにしない（言った責任、言わなかった責任）

Part Ⅱ　リーダーシップ研修＆ロールモデルによるパネルディスカッションと交流会

講師＆コーディネーター　本庄麻美子さん（和歌山大学経済学部助教、キャリアカウンセラー）

パネリスト　小倉　志津さん（和歌山トヨタ自動車株式会社CS推進室室長代理）

中村　真理さん（トランスコスモス シー・アール・エム和歌山株式会社 人材開発グループグループマネージャー）

那須　弓子さん（株式会社ヤマヨテクスタイル 第２事業部総務課課長代理）

本庄麻美子さん

前半のリーダーシップ研修では、講師がリーダーの役割として求められることなどを様々な研究事例をもとに解説されました。リーダーといえば、部下に指示・命令して動かす支配型リーダーのイメージが強いが、そうしたイメージとは逆の「サーバント・リーダー」という考え方を紹介。リーダーが「まず相手に奉仕し、その後相手を導く」という考え方で、「この人に付いていきたい」と思われ信頼されることがポイントだと説明されました。そして、「傾聴する」「共感する」など10の特性にふれ、皆さんもできるところから意識してみてほしいと語られました。

左から、小倉さん、中村さん、那須さん

後半のパネルディスカッションでは、リーダーとして活躍中のパネリストが、自身の経歴や管理職に就いたときの心境などを話されたのち、参加者からの質問に、個々の経験を交えながら答えられました。なかでも、リーダーになって変わったこととして「弱音は吐いていいけど、文句は言わない」「自分で考えて物事を決められ、全体の状況が分かってくるので、それを生かせる」など具体的に紹介されました。その後グループワークに移り、目指すリーダー像に向けて自分ができることを考え、グループでまとめて全体で共有しました。

最後にパネリストから「悩みながらもやりがいや楽しさを感じていけるので頑張ってほしい」「声をかけられたら一度は受けてみる。続けていれば自分なりの方法が見つかるので投げ出さないでほしい」とメッセージをいただきました。

男女共同参画 公開セミナー in 白浜町
「自分らしく生きるために～自分と向き合うエンディングノート～」

講師：**生島（いくしま）　清身**さん（行政書士・落語講演家）　　11月5日（日）　白浜町立総合体育館小アリーナ

「終活」をテーマとし、性別にかかわらず自分らしい生き方、終え方を考えるセミナーを開催しました。

行政書士として相続や遺言作成などに携わるかたわら、落語講演家としても活躍している講師は、最初に創作落語「天国からの手紙」を披露。亡くなった主人公が天国に行く前に、相続でもめていた残された家族に思いを伝えるため、手紙を書いて届けようと一旦現実の世界に戻り、その手紙を読んだ家族が思いを知って仲良くなるという噺で、思いを伝える大切さについて楽しく伝えられました。

続いて、エンディングノートを書くことは「死ぬ準備」ではなく「今後の人生を笑顔で自分らしく過ごす準備」であるとして、講師が考案した「笑（エ）ンディングノート」が参加者全員に配布されました。記入のポイントとして、医療や介護、葬儀、財産相続の希望のほか、自分の好きなことやチャレンジしたいこと、大切な人へのメッセージなどを残してほしいと述べ、ノートを作成したことを家族や周囲に伝えることも大切だと語られました。

男女共同参画センター「語り合い広場」
「自分らしく働きたい！　女性のための自己発見講座」

講師：**穂藤（ゆみ）　友美**さん（人材育成コンサルタント、ブリリアント・リンク代表）

12月3日（日）　“りぃぶる”会議室A

再就職や転職を考えている女性を対象に、自分の「強み」に気づき、その伝え方を学ぶことを目的に講座を開催しました。

講師は、求人倍率が上がり、働く機会や働き方の種類が増えていることを挙げ、自分に合った働き方が見つけられるチャンスであり、そのためには仕事に結び付けられる自分の「強み」を分かっていることが大事であると話されました。「強み」となるのは資格ではなく、得た知識やノウハウをどのように活かしたかが重要。専業主婦も、例えば細かいところに気がつく、誰にでも話しかけることができる、とっさの判断力があるといったヒューマンスキルが「強み」だと、視点を変えて考える大切さを述べられました。

ワークではグループに分かれて、子どもの頃夢中になったものや得意なこと、克服してきたことなどを各自で書き出し、グループ内で共有したのち、メンバーの「強み」だと思うことをそれぞれ伝え合いました。その後、PREP法（※）を用いて自分の「強み」を整理し、グループ内で発表しました。

最後に、講師は自分では当たり前だと思っているような面が実は「強み」になることもあるので、ぜひ自信を持って一歩を踏み出していってほしいとエールを送られました。

※ P（結論）→R（理由）→E（具体例）→P（再度結論）の順番で話を展開し、自分の主張に説得力をもたせる手法

イベントレポート！

11/11(土) りぃぶるフェスタ2017 和歌山ビッグホエール

ブースでは、デートDVについてのアンケートとポスター展示を行いました！

きいちゃんと一緒にパープルリボンを飾ろう！イベントも大盛況♪

11/11(土)～25(土) パープルリボンキャンペーン りぃぶる図書室

「女性に対する暴力をなくす運動期間」（11月12～25日）に合わせ、暴力根絶の願いを込め、ツリーにリボンを飾り、メッセージを書いていただきました。

※パープルリボン：女性に対する暴力根絶のシンボル

※「男女でつくる元気な和歌山」ポスターコンクール表彰式

最優秀賞受賞作品

落合（おちあい）　莉望（りの）さん
（広川町立津木小学校１年）

嶋田（しまだ）　琴巴（ことは）さん
（和歌山市立宮小学校６年）

川島（かわしま）　幸乃（ゆきの）さん
（和歌山市立紀伊中学校２年）

岡崎（おかざき）　葵（あおい）さん
（和歌山市立和歌山高等学校２年）

“りぃぶる”図書室

☆スタッフおススメ図書☆

しっぱい なんか こわくない！

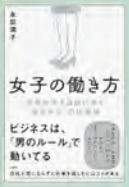
作 アンドレア・ベイティー
絵 デイヴィッド・ロバーツ
訳 かとうりつこ
出版社 絵本塾出版

NASAの女性宇宙飛行士が国際宇宙ステーションから地球の子どもたちへ読み聞かせをした絵本。

世界一のエンジニアになりたくて色々なメカを作っていたロージーは、大好きな動物園のおじさんにプレゼントしたメカを大笑いされ夢をしまい込んでしまう。そんなロージーに、おおおばさんが伝えたひと言が彼女を大きく変える。

失敗しても夢を追い続ける大切さ、応援する方法を教えてくれる絵本。

女子の働き方
男性社会を自由に歩く「自分中心」の仕事術



著　者　永田潤子
出版社　文響社

女性として初めて海上保安大学校に入学、巡視艇の船長も務めた経歴の著者が、男性優位社会のなかで頑張る女性に贈る働き方の本。

組織や男性の働き方に合わせるのではなく「自分中心」に働く。会社も上司も自分の人生を面白くするために使いこなそう。簡潔で明快に綴った言葉に仕事を楽しむエッセンスが詰まっている。女性活躍の波に翻弄され疲弊しそうになる女性たちへの優しきエールである。

デザート・フラワー　DVD

監督　シェリー・ホーマン
2009年ドイツ・オーストリア・フランス合作

FGM（女性器切除）の慣習が残るソマリアで、貧しい生活を送る少女がトップモデルへと駆け上がった自伝をもとに作られた作品。

ワリスが有名女性誌のインタビューで話したのは３才の時に受けた女性器切除の生々しい実態だった。やがて彼女は国連本部でFGMの廃絶を訴える。

FGMの実態を知るとともに、ワリスの逆境に負けない力強い生き方を学びたい！

自分を大切にするために…。 **“りぃぶる”相談室**

相談受付専用ダイヤル 073(435)5246

相談料は無料。専門の相談員がお話をおうかがいします。
秘密厳守です。ナンバーディスプレイは使用しておりません。

総合相談

家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に女性相談員が応じます。

電話相談

㊋㊌㊍㊎㊏○　9：00～20：30（受付は20：00まで）

○○○○○㊐　9：00～17：00（受付は16：30まで）

面接相談（予約制・女性のみ）

㊋㊌㊍㊎㊏○　9：00～17：30（受付は16：30まで）

○○○○○㊐　9：00～16：00（受付は15：00まで）

女性のためのカウンセリング

女性が抱えるこころの問題に女性カウンセラーが応じます。

面接相談または電話相談

○○○㊎○○　13：00～15：40
※第2・第4金曜日

予約制、各日3人まで。
相談時間は1人40分。

女性のための法律相談

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

面接相談のみ

月4回　13：00～14：50

※日程は“りぃぶる”までご確認ください。

予約制、各日3人まで。
相談時間は1人30分。

男性のための電話相談

職場のストレスをはじめ、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

○㊌○○○○　16：00～20：00（受付は19：30まで）

※毎月第2水曜日
予約優先（匿名可）
相談時間は1人40分程度

性暴力について相談したい…

性暴力救援センター和歌山

わかやま mine（マイン）

（和歌山県立医科大学附属病院内）

◆相談受付専用ダイヤル

073－444－0099（オーエンキューキュー）

○相　　談　毎日／9:00～21:30
○緊急医療　毎日／9:00～22:00

こころとからだの回復のために女性支援員が細やかな支援を行います。
ひとりで悩まずに相談してください。

☆表紙デザインについて☆

作者の尾崎共さんは、イラストレーションのほかに、フェイス＆ボディペイント、妊娠したお腹に絵を描くマタニティペイントや、シールを使って様々な絵を作るシールアート、子ども向けワークショップ活動もしています。

センターの愛称“りぃぶる”はフランス語で「自由な（libre）」の意味。表紙は、まるで、自分らしい自由な未来に向かって飛び立つかのように、鳥を追う子どもが描かれています♪

◆発行　和歌山県男女共同参画センター

“りぃぶる”

〒640-8319　和歌山市手平2丁目1－2
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

TEL（073）435－5245
FAX（073）435－5247
《メールアドレス》libre@sirius.ocn.ne.jp

開館時間　火曜～土曜：午前9時～午後9時
日曜：午前9時～午後5時30分
休館日　毎週月曜・国民の休日（祝日）
年末年始（12月29日～1月3日）

りぃぶる　検索

フェイスブックも更新中♪

－企画・編集　特定非営利活動法人 和歌山eかんばにい－